

文学研究科 国際交流プロジェクト

2011 年度日本語上級講座 前期・後期報告書

2011 年度 国際交流プロジェクト

プロジェクト担当者

平田 昌司 (文学研究科 教授)

講師

蔡 濟英 (教務補佐員・国語学国文学 OD)

増田 知之 (教務補佐員・東洋史学 OD)

2012 年 3 月

【目次】

序言	2
【前期資料】	
日本語講座開講案内書	3
事前打ち合わせ(5月19日)議事録	4
事前打ち合わせ(5月23日)議事録	5
第1回目報告書	6
第2回目報告書	7
第3回目報告書	8
第4回目報告書	9
付：要約問題添削例	11
前期最終ミーティング議事録	12
【後期資料】	
日本語上級講座後期実施要領	13
第1回目報告書	15
第2回目報告書	17
第3回目報告書	18
第4回目報告書	19
付：発表要旨添削例	20
第5回目報告書	21
まとめ	22
【付録資料】	
アカデミック・ライティングに役立つ著書・研究論文目録	24
受講生の日本語歴参考	25

【序言】

日本の大学における留学生総数は過去 30 年間で急増してきている。京都大学の場合も、1983 年 298 人に過ぎなかった留学生数が 2009 年には 1430 人にまで増えている¹。しかし、日々急変するグローバル化のなかで、今後日本の大学は留学生受け入れの面においても、海外の大学と競争せざるを得ない立場に置かれているといえる。したがって、現状に満足せず、より積極的に海外の優秀な人材を受け入れることは非常に重要なことでもあり、これから日本の大学が模索すべき一つの生存の道にもなるだろう。

京都大学文学研究科ではこういった近年の状況を受け、2009 年度下半期から文学研究科学生支援プロジェクトの一環として「国際交流」プロジェクトを結成し、本研究科の OD を起用して留学生受け入れ体制の整備を試みている。

初年度には、まず、本研究科ホームページの留学関連情報の現状分析をはじめ、日本国内および海外²の他大学の事例報告をし、次に、本研究科の事務職員や在籍留学生を対象にしたアンケート調査結果を報告し、さらに、これらをまとめて文学研究科への提言を試みた。

2 年目(2010 年度)には、1 年目の調査成果を土台として実際に文学研究科のホームページの改善を目指し、京都大学の沿革(英語訳を含む)や研究室の紹介、専修別の授業形態、入学から卒業までの流れなど、留学生に必要と思われる情報の製作に取り掛かった³。

そして、3 年目を迎える今年、本研究科で修学している留学生の研究活動に役立てるべく、修士・博士課程の留学生を対象に、上級日本語講座やアカデミック・ライティングの講座(論文執筆法)を実施することとなった。特にアカデミック・ライティング講座においては、留学生に実際どういう講座を開いてほしいか、直接彼らの意見を聞き、その要求に応じて開設した次第である。

以下、本講座の具体的内容を示すべく、前期・後期各回の報告書およびミーティングの議事録、また開講案内書等を掲載する。

¹ 『京都大学百年史 資料編 3』(京都大学後援会、1997 年)及び本プロジェクト 2009 年度(下半期)報告書『国際交流の観点から見た文学研究科 web サイトの調査報告および文学研究科への提言』(京都大学文学研究科、2010 年)。

² 中国、韓国、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、イタリアなど 7 ヶ国の大学を調査対象とした。

³ <http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/2009gakusei-sien/kokusai/index2010.html>

【日本語上級講座開講案内書】

2011年5月2日

2011年度日本語上級講座ならびにガイダンスのお知らせ

この度、文学研究科学生支援プロジェクト・「国際交流」プロジェクトでは、留学生のみなさんを対象として、論文やレポートを書く際に必要となる日本語能力の獲得をサポートするため、本研究科 OD による日本語上級講座を開催することとなりました。

開講に先立ちまして、来る5月23日(月)にガイダンスを実施します。受講をご希望の方、興味のある方は是非ご参加ください。

講座の概要 (暫定)

- 期 間：2011年5月～2012年3月
日 時：隔週月曜日 16:30～18:00
場 所：受講者の人数により後日決定します。
対 象：上級レベルの日本語習得を目指す留学生（初・中級レベルではありませんのでご注意ください。）
内 容：現段階では上級レベルの日本語作文指導（長文要約などの読解も含みます）を予定していますが、できるだけ受講者のみなさんのご要望を取り入れる形で進めていきます。なお、テキスト等の資料はすべて講師が準備します。
講 師：蔡 濟英(国語学国文学 OD) 増田 知之(東洋史学 OD)

ガイダンスのご案内

- 日 時：5月23日(月) 16:30～
場 所：文学部新館2階第6演習室
内 容：講師の紹介、講座についての簡単な説明、アカデミック・ライティング関連の参考書の紹介などを行います。また、受講希望者に対してアンケートを実施し、それに基づいて講座の具体的内容、開催日程などを決める予定です。
申込方法：下記までメールにてご連絡ください。**5月20日(金)締切。**

文学研究科学生支援プロジェクト・「国際交流」プロジェクト
担当教員：平田 昌司

- 【問い合わせ先】 *****@*****.jp (蔡)
*****@*****.jp (増田)

【2011 年度日本語上級講座についての打ち合わせ】(蔡・増田)

2011/05/19

I. 日程・人数・場所

1)前期：第1回5月23日(月)、第2回6月6日(月)、第3回6月20日(月)、第4回7月4日(月)

後期：第1回10月3日(月)、第2回10月17日(月)、第3回11月7日(月)、第4回11月21日(月)、第5回12月5日(月)

→前期4回・後期5回(ともに初回はガイダンス)、長期休暇は休講とする。

時間：16:30～18:00

2)人数：3名(5月19日現在)、以後参加申込があれば、随時対応。

3)場所：ガイダンスを行う講義室(新館2階第6演習室)を継続して使用したいが、可能であるか?

II. 講座の内容(暫定)：大きくふたつの部分に分かれる。

1)アカデミック・ライティング用のテキストを使用し、書き言葉の表現や論文の執筆法などをレクチャーする。

→蔡担当、テキストは『大学生と留学生のための論文ワークブック』(浜田真理・平尾得子・由井紀久子共著、くろしお出版、1997年)、約45分間

2)日本語の要約問題を宿題として課し、次回の講座において添削・解説を行う。6月6日分については、ごく簡単な問題を用意し、講座時間内に解説を行う。

→増田担当、テキストは未定(大学受験参考書の類がよいか、後日検討)、約45分、課題提出方法は講座の際がよいか、講座の数日前を締切として添付ファイルで送付してもらうのがよいか(後日検討)。

III. 23日(月)のガイダンスについて

- ・時間：16:30～ (おそらく1時間程度)
- ・場所：文学部新館2階第6演習室
- ・内容：1)講座の前期・後期の日程および場所についての説明
- 2)講座で使用するテキストの紹介、およびアカデミック・ライティングについての参考文献の紹介
- 3)講座の内容・進め方についての説明
- 4)受講者の自己紹介および意見・要望の聞き取り

【2011 年度日本語上級講座についての打ち合わせ】(蔡・増田)

2011/05/23

I. 日程・人数・場所

- 1)前期：5月23日(月)、6月6日(月)、20日(月)、7月4日(月)
後期：10月3日(月)、17日(月)、11月7日(月)、21日(月)、12月5日(月)
→前期4回・後期5回(ともに初回はガイダンス)、長期休暇は休講
時間：16:30～18:00
- 2)人数：4名(後期より1名増、計5名)
D2・D1・D1・M1
- 3)場所：新館2階第6演習室(仮おさえ済、後日「教室使用願」提出)

II. 講座の内容(暫定、5月23日段階)

※大きくふたつの部分に分かれる

- 1)アカデミック・ライティング用のテキストを使用し、基本的な日本語の説明を行う。
→蔡担当、40分程度、テキストは『留学生のためのレポートの文章』および『実践にほんごの作文』(前回提示した『大学生と留学生のための論文ワークブック』は参考書として使用し、本書「基礎編」(約20頁)はコピーの上、受講者に配布予定)
前期：「書き言葉」を書く上での基本的・基礎的な事項の説明(「は」・「が」の区別、自動詞・他動詞、「～のである」の使い方、連用中止とテ形接続など)
後期：より応用的内容について説明。文章の内容別に講義する(定義する文章、比較・対照する文章、分類する文章など)。
- 2)日本語の要約問題を宿題として課し、次回の講座において添削・解説を行う(6月6日は、講座時間内に作文・添削・解説を行う)。
→増田担当、40分程度、テキストは大学受験参考書などを使い、長くはない一般的な文章の要約を課す
※また、実際に論文を執筆する際に必要となる「先行研究の要約・引用」についても、上記①で使用するテキストを参照して、随時解説を行う予定である。

III. 第2回目講座(6月6日)の事前打ち合わせ

- ・集合時間：15:00～
- ・集合場所：文学部新館北側入り口
- ・内容：1)講座内容についての最終確認
2)上記波線部の資料コピー

第 1 回目報告書

I. 日時・場所：2011 年 5 月 23 日 16:30～17:30 新館第 6 演習室

II. 内容：ガイダンス(今後の講座についての具体的説明など)

1) 講座の日程・場所

- ・ 日程：6 月 6 日(月)・6 月 20 日(月)・7 月 4 日(月)
10 月 3 日(月)・10 月 17 日(月)・11 月 7 日(月)・11 月 21 日(月)・12 月 5 日(月)
- ・ 時間：16:30～18:00
- ・ 場所：文学部新館第 6 演習室

2) 講座の内容および進め方

→大きく二つの部分にわけて実施する(毎回各 40 分程度)

- ・ テキストを使った基本的日本語の説明：「は」・「が」の区別、自・他動詞など
- ・ 要約の練習：論文執筆の際に必要な文章(先行研究論文)の要約の訓練として、比較的短い文章の読解・要約の添削指導を行う。

3) テキストの説明およびアカデミック・ライティングに関する参考文献の紹介

4) 受講者の自己紹介およびアンケート記入

III. 受講者数：4 名(D2・D1・D1・M1)

IV. 受講者の感想など(原文通り)

- ・ 基本的なことは、いつ学んでも遅くないので、本講座で身につけられることは論文を書く時に生かしたいと思います。よろしくお願いします。
- ・ 文章を簡潔にまとめたいです。そして、助詞や決まった表現がうまく使えるようになりたいです。
- ・ 特に表現力をのびしたいと思う。専門用語より、一般的に論文で使われている表現を学びたい。
- ・ 考古学の論文において、変な自動詞・他動詞があるようですので、それなどについて期待しております。

第 2 回目報告書

I. 日時・場所：2011 年 6 月 6 日(月) 16:30~18:00 新館第 6 演習室

II. 講座内容：大きく二つの部分にわけて実施(各 45 分程度)

- ・テキストを使った基本的日本語の説明：蔡担当
→助詞「は」と「が」の区別について、配付資料を用い、例文を提示しながら詳細に説明。のち、テキストの練習問題を受講生に解かせ、解説を行う。
- ・要約の練習：増田担当
→論文執筆時における先行研究の要約・引用の重要性を述べ、配付資料を用いて引用の実例を紹介。要約の方法を略述したのち、練習問題を使って受講生に解かせ、解説を行う。次回用の要約課題を出し、来週までに提出するよう指示。

III. 受講者数：3 名(D1・D1・M1)

IV. 受講者の感想・意見など(原文をもとに一部訂正)

- ・初めての講義だったので、特になし。時間の不足は毎週の問題だと思われるので、とりあえずは気にしなくてもよいと思う。
- ・前半については、「は」と「が」の使い分けがいかにも難しいものであるのか、改めて実感した。御丁寧な説明、ありがとうございました。後半については、簡潔に要約できるようにになりたいと思った。
- ・授業の内容はとても便利(有益・実用的?)だと思う。

V. 講師の反省点など

【蔡】今回は「はとが」についての内容でしたが、みなさん熱心に聞いてくださって、ありがたく思います。今日の授業で自分に当てられた時間は前半の 45 分だけで、準備したのを全部言わなきゃと思ったあまりに、少々慌てて進めた感じがします。次回は時間内に収まるような内容で、よりスムーズに授業を進めればと思います。

【増田】より詳しくかつ丁寧に説明することを心がけたが、その一方で、予定していた内容を時間内に収めようと、かなり早口になってしまったと反省している。また、練習問題を 2 題用意していたのだが、時間の関係上 1 題しかできなかった。説明の分量・時間の配分を今後の検討課題としたい。

第 3 回目報告書

I. 日時・場所：2011 年 6 月 20 日(月) 16:30~18:00 新館第 6 演習室

II. 講座内容：二つの部分にわけて実施(各 45 分程度)

- ・テキストを使った基本的日本語文法の説明：蔡担当
→テ形接続と連用中止の用法について、配付資料を用い、例文を提示しながら詳細に説明。のち、テキストの練習問題を受講生に解かせ、解説を行う。
- ・要約の練習：増田担当
→前回の課題の本文の解説及び要約の手順などについて、詳しく説明。また、要約課題の添削を配り、一人ずつ解説を行う。次回用の要約課題を出し、来週までに提出するよう指示。

III. 受講者数：4 名(D3、D2、D1・M1)

IV. 受講者の感想・意見など(原文をもとに一部訂正)

- ・文法、文章の要約も分かりやすく説明してくれました。
- ・文法の話は大変勉強になりました。私はあまり色々な文形(文型?)を理論と関連づけるのはがてななので、今日の資料は今後の参考にします。要約の答例(答案の例?)も、大変分かりやすく、勉強になりました。ありがとうございました。
- ・私も忘れていた質問を答えてくださるのはありがたいです。他は、特に書くことはないと思います。
- ・要約文のし方(仕方?)の説明は面白かったです。文法は前習ったことありますから、少し簡単だった。

V. 講師の反省点など

【蔡】今回は「テ形接続と連用中止の用法」について、授業を行いました。授業を終えてから、今日もう少し余裕をもって分かりやすく説明できたらよかったなと思いました。授業の回数に制限もあり、文法を体系的に扱うのは現実的に難しいとは思いますが、今後も、限られた時間内になるべく作文に役立つ文法事項を選別し、解説していきたいと思います。

【増田】要約の課題を事前に提出してもらっていたため、本文の解説・要約の手順など細かな説明をすることができた。また、各人の課題には事前に朱で添削を施し、授業時間内に一人ずつ口頭で解説を行った。今後の課題は、本講座での一般的文章の要約練習を、いかに論文執筆時における先行研究の要約・引用作業と関連づけてゆくか、である。受講生の専門分野もそれぞれ異なっており、なかなか難しい問題であるが、常に念頭に置いて講座を進めてゆきたい。

第 4 回目報告書(前期最終回)

I. 日時・場所：2011 年 7 月 4 日(月) 16:30～18:00 新館第 6 演習室

II. 講座内容：大きく二つの部分にわけて実施(各 45 分程度)

- ・テキストを使った基本的日本語の説明：蔡担当
→「自動詞と他動詞」について、配付資料を用い、例文を提示しながら詳細に説明。のち、テキストの練習問題を受講生に解かせ、解説を行う。
- ・要約の練習：増田担当
→前回の課題の解説及び要約の手順などについて、詳しく説明。また、要約課題の添削を配り、一人ずつ解説を行う。今回は前期最終回のため、課題はなし。
- ・感想記入および意見交換
→通常通り授業後にアンケートを実施するとともに、前期日程終了につき、受講者から後期に向けての要望などを直接聴取した。

III. 受講者数：3 名(D3・D1・M1)

IV. 受講者の感想・意見など(原文をもとに一部訂正)

[アンケート]

- ・文法の説明は、自動詞と他動詞についてまとまった形で紹介していただいたので、日本語を勉強する際にずっと難しいと思っていた箇所がようやくはっきりとしてよかった。
- ・要約の説明は、文章の要約の際、それが作者の推測によるものであれば、それを明示する必要があることがわかった。
- ・文法の練習問題は少しやさしかったが、自動詞・他動詞の復習という意味では大変役に立ったと思う。要約もわかりやすく勉強になった。
- ・後期への提案として、文法的説明だけではなく、表現の使い分け(例えば副詞や接続詞)についても教えていただければと思う。もちろん、他の参加者の要望にも応じるという形で。
- ・基本的には後期も前期と同様に行っていただければよい。要約する文章は、もう少し学問的なものでもよいと思う。

[口頭]

- ・要約の練習について、文章の要約だけではなく、そこから自分の考えをいかに述べるのかについても練習したい。
- ・要約練習の文章の内容がやや専門的すぎる。日本文化についての文章など、いずれの参加者も関心もてる内容がよいのでは。要約した内容に基づいて自分の考えを述べる練習もしたい(その部分については日本語のチェックのみで構わない)。
- ・日本語表現の使い分けについて勉強したい。

V. 前期を通しての講師の感想・反省など

【蔡】 前期の授業では3回にわたって、それぞれ(1)「は」と「が」、(2)連用中止とテ形接続、(3)自動詞と他動詞について行った。割と基本的な文法ではあるが、実際留学生が日本語で作文する際によく間違えがちなものには何があるだろうかと工夫し、選んだ内容であった。しかし、前期の講座を振り返ってみると、内容はともかく、やや緊張気味で若干慌てて進めた感もしなくはない。授業が終わったあと、留学生の希望を聞いたところ、文法の話もいいが、作文の際に紛らわしい表現の使い分けなどについても講義してほしいという声があった。後期には、留学生の希望を取り入れて、日本語の類義表現についての解説や、作文に役立つ色々な文例を取り扱いたいと思う。

【増田】 論文を執筆する際、先行研究を正しく引用するためには「要約」が必要となる。さらに文章の要約は、作文のみならず読解の練習にもなる。このような考えのもと、前期では比較的平易な短文を選んで要約の練習を行った。受講生の反応もまずまずであったと思われるが、その中から要約の練習にとどまらず、上記したようなそれを一歩進めた提案がなされた。受講生の本講座に対する意欲を感じるとともに、後期の実施に向け、文章の選定など授業内容について再考する必要性を感じた。

【要約問題添削例】

I. 課題：樋口敬二「エベレストがなぜ 8,848 メートルか」というエッセイ(約 1,400 字)をできるだけ短く(できれば 100 字以内)要約してください。

II. 受講生答案(添削前)

偶然に過ぎないかもしれないが、エベレストの高さと圏界面の高さとは因果関係がある可能性がある。成層圏には雲がないので圏界面近くで岩肌の風化が激しいだろう。よってエベレストは削られて、圏界面よりやや低くなっているだろう。

III. 添削例

~~偶然に過ぎないかもしれないが、~~(この部分は必要ないと思います。以下の「可能性がある」という語句が推測の意を表しているので、表現が重複してしまいます。要約ですので省略してよいでしょう。)エベレストの高さと圏界面の高さとは因果関係がある可能性がある。成層圏には雲がないので(筆者の論理展開では、(1)成層圏には雲がない→(2)昼夜の加熱と冷却が激しくくり返される→(3)岩肌(岩石)の風化作用が進行、となっています。したがって、(3)の直接的理由としては、(1)よりも(2)の方が適切ではないかと思えます。また、(1)を理由として挙げるのであれば、(2)も挙げなくてはならないでしょう。)圏界面近くで[は]岩肌の風化が激しい~~だろう~~(→と考えられる(思われる))。よってエベレストは削られて、圏界面よりやや低くなっている~~だろう~~(→のであろう)。

「日本語上級講座後期実施要領」 試案

I. 後期講座の方向性

※修士・博士課程に在籍し研究活動を進めている受講生に、各自の研究内容について日本語でプレゼンしてもらう。

⇒目的：専門外の人に対していかに自分の考えを正確に伝えるか、またいかに要領よく発表を行うかの訓練になると同時に、発表内容をまとめた原稿(要旨)を作成してもらうことによって、高度な日本語作文能力を養うことにもなる。

II. 受講生の準備内容

- ・テーマ：受講者の研究内容(過去・現在は不問)
- ・発表について：発表時間は 1 人 5 分程度。当日は簡単なレジюмеを作成、そのレジюмеのみを使って発表することとする。原稿は見ない。
- ・原稿について：発表要旨を執筆してもらう。1200 字(原稿用紙 3 枚)程度。読み上げ原稿ではない。「書き言葉」で書く。発表日の 1 週間前までに添付ファイルで提出(講師・受講生全員に送付する)。

III. 授業内容

【研究発表】 30 分程度

- 1)発表：5 分間、準備したレジюмеを使用。
- 2)質疑応答：発表内容について、講師・受講生全員による質疑・応答を行う。
- 3)総括：講師が、発表および質疑応答を通じてわかりにくかった点、改善点などを指摘。また、レジюме内の日本語表現の訂正など。

【原稿検討】 50 分程度

- 1)文法説明：原稿内に見られた日本語表現上の問題を踏まえ、テーマを設定して文法の説明を行う。例えば、「書き言葉と話し言葉」、「段落のつくり方」、「副詞・接続詞の表現」など。
- 2)内容の検討：細かい日本語表現をはじめ、全体の構成などについても指摘する。

IV. 今後の大まかな流れ

- ・7 月末～8 月上旬：試案を最終調整し、E-mail によって受講生に通知する。その際、受講生に発表希望日を聞く(9 月 15 日回答締切)。
- ・9 月下旬：平田先生ならびに講師によるミーティング実施。後期開講に向け、受講生の回答を踏まえた上で最終調整を行う。
- ・9 月末：最終決定事項を受講生に通知する。
- ・10 月 3 日：後期講座開講。第 1 回目はガイダンスを実施予定。

【日本語上級講座後期実施要領】

2011/08/29

I. 後期講座の内容

後期は、修士・博士課程に在籍し研究活動を進めている受講生の皆さんに、各自の研究内容について日本語でプレゼンをしてもらうことにします。専門外の人に対していかに自分の考えを正確に伝えるか、またいかに要領よく発表を行うかの訓練になると同時に、発表内容をまとめた原稿(要旨)を作成してもらうことによって、高度な日本語作文能力を養うことにもなると思います。

II. プレゼンの準備について

- ・テーマ：受講生の皆さんの研究内容(現在の研究課題、過去の研究実績など、ご自分の研究内容であれば、いかなるテーマでも構いません。)
- ・発表：発表時間は1人5分程度。発表当日は簡単なレジюмеを作成して配布してください。また、そのレジюмеを使って発表することとします。原稿は見ないようにしてください。
- ・原稿：発表要旨を1200字程度で執筆していただきます(「書き言葉」で書いてください)。これは、上記したよう読み上げ原稿ではありませんのでご注意ください。発表日の1週間前までに添付ファイルで提出してください(増田*****@*****.jp、または蔡*****@*****.jpまで)。また、この原稿は講師および受講生全員にメールで配布しますので、発表者以外の方も事前に必ず原稿を読んでおくようにしてください。

III. 授業内容について

【研究発表】30分程度

- ・発表：5分間、準備したレジюмеを使用。
- ・質疑応答：発表内容について、講師・受講生全員による質疑・応答を行います。
- ・総括：講師が、発表および質疑応答を通じてわかりにくかった点、改善点などを指摘します。また、レジюме内の日本語表現の訂正なども行います。

【原稿検討】50分程度

- ・文法説明：原稿内に見られた日本語表現上の問題を踏まえ、テーマを設定して文法の説明を行います(例えば、「書き言葉と話し言葉」、「段落の作り方」、「副詞・接続詞の表現」など)。
- ・内容の検討：細かい日本語表現をはじめ、全体の構成などについても指摘します。

IV. 後期の日程：前期同様、16:30より文学部新館2階第6演習室で行います。

- ・10月3日(月) …ガイダンス
- ・10月24日(月) …プレゼン1名もしくは2名、当初10月17日(月)を予定しております

したが、この日に変更します。ご注意ください。

- ・11月 7日(月) …プレゼン1名もしくは2名
- ・11月 21日(月) …プレゼン1名もしくは2名
- ・12月 5日(月) …プレゼン1名もしくは2名

※9月18日(日)までに、プレゼンのテーマと発表希望日(第2希望まで)を増田(メール *****@*****.jp)までご連絡ください。よろしくお願ひします。

第 1 回目報告書

I. 日時・場所：2011 年 10 月 3 日 16:30～17:30 新館第 6 演習室

II. 内容：ガイダンス(講座内容の変更および具体的説明)

1) 講座の日程

10 月 3 日(月)・10 月 24 日(月)・11 月 7 日(月)・11 月 21 日(月)・12 月 5 日(月)

2) 講座の内容について

経緯：7 月 21 日の前期最終ミーティングにおいて、後期講座の内容として受講生によるプレゼンを企画し、8 月 29 日に受講生にその旨案内メールを送付。しかし、多忙を主な理由として辞退者が続出し、プレゼン希望者は受講生全 6 名中 1 名。そのため、9 月 23 日、講座内容を a) 希望者のみプレゼン実施、b) 前期同様の文法解説・要約練習を実施と変更し、その改訂案を受講者に通知し参加を促す。10 月 3 日、ガイダンス前に蔡・増田で最終打ち合わせを行い、講座内容を今一度検討し、a) については実施、b) については下記のごとく変更した。

内容：a) 希望者のみプレゼンを実施する(M1)。

b) 「論文執筆法講座」

修士・博士課程に在籍し研究活動を進めている受講生にとって、日本語論文の執筆法の指導は有益であると思われる。そこで、具体的な執筆法について、論文の構成(「序論」、「本論」、「結論」)にしたがって三回に分けて詳しく解説し(それぞれの構成要素のもつ意味やよく使われる表現方法など)、また関連する練習問題を行うこととする。なお、『大学生と留学生のための論文ワークブック』をテキストとして使用する。

3) 受講生の意見聴取およびアンケート記入

→ガイダンスにおいて、上記最終案に対し受講生より賛同を得た。

III. 受講者数：2 名(M1・D1)

IV. 受講者の感想・意見など(原文をもとに一部訂正)

- ・後期の日程や内容について、今日提案していただいた内容で大変納得している。
- ・フレキシブルに対応してもらってありがたい。とりあえずこのまま進めてほしい。

V. 今後の予定

※10 月 24 日・11 月 7 日両日の講座内容は、M1 の発表日によって下記(a)日程もしくは(b)日程のいずれかになる予定。

- 10月24日(月)
 - (a)発表、論文執筆法講座(「構成」の説明および練習問題)
 - (b)論文執筆法講座(「構成」の説明および練習問題・「序論」の説明)
- 11月7日(月)
 - (a)論文執筆法講座(「序論」の説明および練習問題)
 - (b)発表、論文執筆法講座(「序論」の練習問題)
- 11月21日(月)
 - 論文執筆法講座(「本論」の説明および練習問題)
- 12月5日(月)
 - 論文執筆法講座(「結論」の説明および練習問題)

第 2 回目報告書

- I. 日時・場所：2011 年 10 月 24 日(月) 16:30~18:00 新館第 6 演習室
- II. 講座内容：「論文執筆法講座」を二つの部分にわけて実施
- ・テキストを使った概説：蔡担当(20 分)
→論文を書く時の注意事項や論文の構成について説明。
 - ・練習問題及び解説：増田担当(65 分)
→論文の構成に関わる練習問題を配布し、受講生に解かせ、解説を行う。受講生の質問に応じ、論文でよく使われる表現を紹介。
- III. 受講者数：2 名(D1・M1)
- IV. 受講者の感想・意見など(原文をもとに一部訂正)
- ・知っているような知らないような論文構成の話がとても勉強になりました。質問にも丁寧に答えていただいて、ありがとうございました。次回は大変楽しみにしています。
 - ・(講座の内容以外に)今日分かったのは、僕は日本人論を読みすぎているということです。
- V. 講師の反省点など
- 【蔡】本来の予定では、前半で論文を書く時の注意事項や論文の構成について簡単に説明し、増田さん担当の練習問題が終わってから、後半で序論の役割や表現などに触れるつもりであったが、予想外に練習問題の解説に時間がかかり、序論の説明は次回に見送ることになった。今回は自分が担当した時間が短めだったが、次回には論文に相応しい表現とそうでない表現などを受講生と共に考えてみる時間を持つなど、一方的ではない、身近な講座にしたいと思う。
- 【増田】論文の構成(序論・本論・結び)についての練習問題を 2 問解いてもらい、受講生の回答とともに解説を行った。内容は、(1)ある短文を構成別に分類する、(2)構成別にまとめられた簡単なメモを使い短文を作成する、とした。40 分程度を予定していたが、細かな説明を加えたところ、大幅に超過してしまった。問題の分量、時間の配分について今一度検討する必要がある。

第 3 回目報告書

I. 日時・場所：2011 年 11 月 7 日(月) 16:30~18:00 新館第 6 演習室

II. 講座内容：「論文執筆法講座」

- ・テキストを使った概説：蔡担当(25 分)
→論文の「序論」を書く時の注意事項やその構成について説明。
- ・練習問題及び解説：増田担当(40 分)
→「序論」に関わる練習問題を受講生に解かせて解説を行う。その都度、
受講生の質問に応じ、論文でよく使われる表現等を紹介。
- ・テキストを使った概説：蔡担当(20 分)
→論文の「本論」を書く時の注意事項やその構成について説明。時間の関係上、次回(11 月 21 日)も引き続き説明を行う。

III. 受講者数：1 名(D1)、M1 の方は体調を崩し欠席。

IV. 受講者の感想・意見など(原文をもとに一部訂正)

本日の論文の構成の説明も練習問題も、これから論文を書く時に、大変役立つようなものだと感じました。残りの 2 回もよろしくお願いします。

V. 講師の反省点など

【蔡】今回は前半で序論の役割及び構成などについて説明し、具体的な表現を紹介した。序論のところで使える様々な表現を実際練習問題を通じて書いてみる時間を増田さんに担当してもらい、後半では本論について説明したが、時間の都合上途中までしかできなかった。時間に追われ、急いで進めた感があるが、今後よりまとまりのいい授業を目指したい。

【増田】蔡さんによる「序論」の説明ののちに関連する練習問題を解いてもらい、受講生の解答とともに解説を行った。本日は受講生が 1 名ということもあり、問題ごとに受講生の意見も聞きながら他の表現法を紹介するなど、より細かい説明を行った。しかし、時間的制約のなか問題を抜粋せざるをえず、事前に用意した分量をこなせなかった。この点を考慮に入れ、次回以降の問題作りにいかしたい。

第 4 回目報告書

I. 日時・場所：2011 年 11 月 21 日(月) 16:30~18:00 新館第 6 演習室

II. 講座内容：受講者の発表及び発表要旨の添削を実施

・発表者：M1(20 分)

→自身の研究テーマについて発表。

・質疑応答及び発表要旨の添削：増田・蔡担当(70 分)

→発表要旨の添削と共に論文や発表に相応しい他の表現法を紹介。

III. 受講者数：2 名(D1・M1)

IV. 受講者の感想・意見など(原文をもとに一部訂正)

・今日の授業は新しい日本語の表現を身につけることができ、大変勉強になりました。
ありがとうございました。

・今日の授業は僕自身には役に立ちましたが、D1 の方にはどうだったんでしょう。

V. 講師の反省点など

【蔡】本来は発表後、論文執筆法の続きを行う予定だったが、予想外に質疑応答や添削に時間が掛かってしまい、今回は受講者の発表に関する内容に止まった。もっと短時間に説明を済ますこともできたが、せっかくの発表だと思い、なるべく受講者の質問に丁寧に答え、様々な場面で使える表現を紹介することに注力した。次回で、本講座もいよいよ最終回を迎えることになるが、全体の内容をまとめて分かりやすい講座にしたいと思う。

【増田】当初、受講生の発表と先週に引き続き論文執筆法の解説をする予定であったが、時間の関係上、発表のみとなってしまった。特に、事前に提出された発表要旨(1600 字程度)の添削では、適切な日本語への訂正、他の表現法の紹介などで相当の時間を費やした。今後、時間の配分や説明の方法に改善すべき点は少なくはないが、受講生(留学生)の発表訓練は大変よい試みであるということを改めて実感した。

【発表要旨添削例】

※本発表内容は未刊行のものであるので、固有名詞等についてはすべて伏せ字(*)とした。
尚、添削例としての発表要旨掲載にあたっては、すでに受講生本人の承諾を得ている。

I. 受講生提出原稿(添削前、一部抜粋)

この研究の成果は、*****の*****のバラツキが予想されないぐらい激しく、ほかの**における*****との比較はあまり価値がないと思われることであるが、方法の改良によって違う成果が出る可能性もある。たとえば、今回は***のデータだけを用いたが、**や**とその建物を囲む**を加えたら全体的なバラツキが縮んでくる可能性もあり、****だけでなく、建物と建物の中の**も考慮する必要がある。しかし、**に当たって、手動的に*の中心位置を指摘することは非常に時間がかかる。それで、*****を通じて、速く精密なデータを得て、それを検討していきたい。

II. 添削例

~~この~~(→本)研究の成果は、*****の*****の[各建物間における?]バラツキが予想されないぐらい激しく(→以上に大きく)、ほか(→他)の**における*****との比較はあまり価値がないと思われることであるが、(→には価値を見出し難いことを示したことである。)[ただし、今後の分析]方法の改良によって[は、これとは]違う(→異なる)成果が出る(→得られる)可能性もある。たとえば、今回は***のデータ~~だけ~~(→のみ)を用いたが、**や**と~~その~~建物を囲む(→、およびその)**を加えたら(→て分析を行えば、)全体的なバラツキが縮~~んで~~くる(→より小さくなる)可能性もあり、[また]**[の]**だけでなく、建物と建物の中の**[を]も考慮する(or 考慮に入れる)必要がある。しかし、**に当たって、~~手動的に~~(→手作業で)*の中心位置を指摘(→特定 or 算定)することは非常に時間がかかる。~~それで~~(→そこで)、[今後は]*****を~~通じて~~(→利用して)、速~~く~~(→より多くの)精密なデータを得~~て~~(→集めた上で)、~~それを~~[分析・]検討[を継続?]していきたい。

第 5 回目報告書

I. 日時・場所：2011 年 12 月 5 日(月) 16:30~18:00 新館第 6 演習室

II. 講座内容：「論文執筆法講座」

- ・テキストを使った概説：蔡担当(40 分)
→「本論」・「むすび」を書く際の注意事項や構成、表現方法についての説明。
- ・練習問題及び解説：増田担当(50 分)
→「本論」・「むすび」に関わる練習問題を受講生に解かせて解説を行う。
随時、論文でよく使われる表現等を具体的に紹介。

III. 受講者数：1 名(D1)、M1 の方は所用にて欠席。

IV. 受講者の感想・意見など(原文をもとに一部訂正、欠席者の感想含む)

- ・具体的な内容の授業で、練習問題もやっていただいたことが大変勉強になった。これから論文を書く時の参考にしたいと思う。本当にありがとうございました。
- ・後期の内容は基本的によく、配布資料など部分的には将来でも参考になると思う。簡単すぎた箇所もあったが、復習する価値はあった。一番役に立ったのは、発表した論文原稿の訂正と評価だった。毎回このような訂正をしてもらえれば、他の活動よりも役に立つかもしれない。講座の頻度を増やした方がより身に付くと思う。今回の頻度では、内容がよくても身に付きにくいのが、それでも良い経験になったと思う。本当にありがとうございました(→当日欠席ではあるが、後日感想を提出してもらった)。

V. 講師の反省点など

【蔡】今回は「論文執筆法講座」の引き続きで、「本論」の後半や「結び」について説明を行った。「本論」のところでは、「意見提示」「結論提示」「行動提示」の方法や具体的な表現を紹介し、後に「結び」の役割や構成などについて説明した。前回の発表で予定より時間がかかってしまったため、今回は特に時間の配分に注意を払いながら授業を進めた。今後、様々な状況に対応し、スムーズに授業が進められるよう努力する必要があると思われる。

【増田】蔡さん担当の説明部分に関連する練習問題を解かせ、受講生の解答とともに解説を行った。第 3 回目同様、受講生が 1 名であったので細かな指導をすることができたと思う。しかし、最終講義日ということもあり完結させなければならず、当初準備していた問題をすべて行うことができなかった。教材の選定・作成に関しても更なる改善が必要であると感じた。

【まとめ】

今年度、「国際交流」プロジェクトでは、文学研究科の留学生を対象として、上級レベルの日本語能力の獲得を目指した日本語講座を開催した。その具体的内容、受講者数の推移や受講生の感想、更には後期講座における内容の変更等については、前掲のミーティング議事録や講座各回の報告書で示したとおりである。

ここでは、本講座の簡単なまとめを行った上で、前期・後期を通じての問題点や改善点を記すこととする。

本講座はまず、前期に計4回の日本語上級講座を実施し、講師2名で前半と後半に分かれ、前半では主にテキストを使って基本的ではあるが留学生にとって紛らわしいと思われる日本語の文法を説明し、後半では論文執筆の際に必要な文章の要約の訓練(主に添削指導)や練習問題の解説を行った。続いて後期では、計5回にわたって論文執筆法の講座を実施し、前期と同様、2名の講師が分担し、前半ではテキスト(『大学生と留学生のための論文ワークブック』)を使って論文の構成(「序論」・「本論」・「結論」)にしたがい解説し、後半では練習問題や添削指導を行った。また、希望者に限り、自分の研究分野に関する内容で発表する機会を提供し、学会での発表に備えた質疑応答の訓練や日本語の問題点について相互検討する時間を設けた。

次に、前後期を通じて持ち上がった問題点を列挙して、今後の課題としたい。

前期で中心的に行った日本語文法の説明・要約練習に関しては、まず文学研究科に在籍する大学院留学生のもつ日本語能力は非常に高く、文法の説明に特化した内容では容易に感じられた点である。これは受講生の感想の中にも端的に表れている。一方で受講生が本講座に求めていたものは、日本語の「表現力」の向上であったと思われる。また、要約練習に関しては、各受講生の専門分野が多岐にわたるため、課題とする文章の選定に苦労した。本講座で使用したような一般的文章の要約を、論文執筆時における先行研究の要約・引用といかに関連づけてゆくかが今後の課題となろう。

後期については、当初、修士・博士後期課程に在籍し研究活動を進めている受講生に、各自の研究内容について日本語でプレゼンを行うよう提案したが(pp14-15)、多忙を主な理由として辞退者が続出し、受講者数が前期の5名から2名へと減少する結果となってしまった。事前の周知の仕方に再考の余地があろう。しかし、最終的にプレゼンを行った受講生は1名のみであったが、当日の発表および質疑応答、更には発表要旨の添削指導等は大変充実したものとなった(pp20-21)。また、テキストを用いて行った論文執筆法講座も、実際の日本語論文の執筆を想定して有用な表現法を多数紹介するなどし、受講生の反応もまずまずであったといえる。今後の方向性として、後期を通じて行ったような受講生の実益に供する内容をより拡充する形が望ましいと思われる。

また、前述したように、本年度は『大学生と留学生のための論文ワークブック』を主に使用した。本書は論文執筆に関する諸情報を多くの実例を示しながら事細かく解説してお

り、大学院留学生に対しても教材として使用するに足る。今回は受講者数がさほど多くなかったこともあり必要箇所をコピーの上配布したが、今後は教材費を計上し受講生および講師分を取りそろえることが望ましい。

更には、講座の日時・場所の設定も重要な問題である。本年度は文学研究科の教室を使用したため、学部・大学院の授業の空き時間を利用することとなったが、幸いにも月曜日5限(16:30～18:00)に開講することができた。しかしながら、授業期間中に使用可能な時間帯と受講生各自の時間割との兼ね合いもあり、講座を実施するに十分な受講者数を確保できる可能性は不確定である。一方で夏季・冬季の長期休暇は留学生の帰国時期となり、これもまた同様の問題が残る。今後一考すべき課題であろう。

【付録資料 1】

アカデミック・ライティングに役立つ著書・研究論文目録

・著書

- (1) 『留学生のためのレポートの文章』二通信子・佐藤不二子、凡人社、1999年
- (2) 『留学生のための論理的な文章の書き方』二通信子・佐藤不二子、スリーエーネットワーク、2000年、(1)の改訂版
- (3) 『大学生と留学生のための論文ワークブック』浜田真理・平尾得子・由井紀久子共著、くろしお出版、1997年
→文系の留学生が専門的な内容のレポートや論文作成に役立つ。文章の構成の仕方
や文型の使い方がわからないとき、参考にできる。
- (4) 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』二通信子[ほか]著、東
京大学出版会、2009年（京大附属図書館所蔵）
- (5) 『実践にほんごの作文』佐藤政充他、凡人社、1986年
→留学生が一般的な内容の作文を書くのに役立つ。
- (6) 『ぎりぎり合格への論文マニュアル』山内志朗、平凡社新書、2001年
→論文の形式について分かりやすく説明されている。
- (7) 『日本語文型辞典』グループ・ジャマシイ編著、くろしお出版、1998年
→数多くの日本語の文型を意味から使い方、例文に至るまで詳しく説明しているの
で、日常生活はもちろん論文作成の時にも参考できる。
- (8) 『使い方の分かる類語例解辞典』小学館辞典編集部、小学館、2003年
→論文を書く時に、相応しい言葉を使っているのか、もっと相応しい言葉があるの
ではないかと疑問を感じたときに、引いてみると良い。

・報告書

- (1) 「<報告>日本語教育におけるアカデミックライティングの授業の試み」木戸光子、筑波
大学留学生センター日本語教育論集、16、pp.121-132、2001年、筑波大学留学生セン
ター

【付録資料 2】

受講生の日本語歴参考（一例）

- ・ 出身：
ウクライナ
- ・ 日本語勉強歴：
計 8 年
- ・ 日本語教育を受けた教育機関：
キエフ大学の日本語学科
天理大学の日本語講座（1 年間の短期留学）
ウクライナ日本センターの日本語上級講座
京都大学留学生課の上級講座
- ・ 教育を受けた相手：
各機関の講師
- ・ 過去に受けた日本語関連の授業および講座：
文法、講読（reading）、リスニング、会話
作文、レポートの書き方
アカデミック・ライティング
日本語能力試験のための授業など